

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会  
情報・技術ワーキンググループ（第4回）

意見

白井 詩沙香

高等学校情報科の科目構成ならびに情報活用能力の抜本的向上イメージに関する意見

「資料2 中学校 情報・技術科（仮称）及び高等学校 情報科の目標と見方・考え方について」の26ページ目で説明いただいた高等学校情報科の科目構成の改善イメージについて、引き続き情報Ⅰを存置し、生徒が興味関心を持って学べるよう実践的・探究的な内容を充実させることに賛成します。また、大学における数理・データサイエンス・AIモデルカリキュラムのリテラシーレベル（2024改訂の水準）とのスムーズな接続を意図し、情報Ⅰにおいてもその概観を捉えることができるよう内容を充実させることも重要であると認識しております。

一方で、この説明がないまま「資料1 情報活用能力の抜本的向上が目指す姿について」の8ページ目だけを見ると、現行のリテラシーレベルの内容が情報Ⅰに移行し、応用基礎レベルを情報Ⅱや大学初年次で主に扱うかのような誤った印象を与える可能性があります。その点を懸念しております。

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や、社会における価値創造への適応のためには、学んだ知識を活用したり、実課題へ応用するための実践的・探究的な学習のための時間確保が必要です。大学における数理・データサイエンス・AIモデルカリキュラム

のリテラシーレベルの概観を捉えるために、新しい学習内容を一部導入することは必要ではありますが、何をどの程度扱うかについては、現行の情報Ⅰで扱っている内容の確実な定着ならびに実践的・探究的な授業を行うための時間を十分に確保できることを前提として慎重に検討する必要があると考えています。

また、中学校情報・技術科（仮称）に現行の情報Ⅰの学習内容が一部移行したとしても、高等学校の情報Ⅰにおいて、中学校情報・技術科（仮称）で扱った内容を意図的に再度取り上げるなど、積極的に学び直しの機会を設けていただきたいと思います。実践的・探究的な学習充実のためには、既習事項の確実な定着と既習事項と新しい内容の繋がりを意識させ、理解を深めることが重要です。意識的に学校段階間で内容の一部を重複させるなどして、反復的に学べるような編成を検討いただきたいと思います。

「デジタル技術の民主化」という概念が広まる時代だからこそ、プロンプトを書く場合であっても生成 AI の出力の正しさを検証するためにも、基礎的な知識・素養の涵養が肝要であると考えています。